

がんと心臓一心堂・かかりつけ病院一心堂

ISSHINDOW NEWS

OFFICIAL
HOMEPAGE



12月号

2024.12.2 Mon

[発行] 社会医療法人岡村一心堂病院 広報部 岡山市東区西大寺南2-1-7 086-942-9900



胸の痛み、息切れ、むくみは心臓疾患のサイン!?

循環器内科では、心筋梗塞や狭心症などの急性期疾患から、不整脈や心不全などの慢性疾患まで、幅広い心臓疾患に対応しています。4名の循環器専門医(日本循環器学会専門医)が、患者さん一人ひとりに寄り添いながら、専門知識と経験を活かし、最適な治療を提供しています。

「胸の痛み」「息切れ」「むくみ」といった症状は、心臓疾患の可能性を示す重要なサインです。心臓カテーテル検査をはじめとする高度な検査技術を駆使し、冠動脈疾患や弁膜症などの診断と治療を的確に行っています。また、320列CTや1.5テスラMRIといった最新医療機器を用い、迅速かつ正確な診断を可能にしています。心不全治療にも注力し、生活習慣の改善に向けたアドバイスを通じて、患者さんの生活の質(QOL)の向上を支援しています。「がんと心臓 一心堂」「かかりつけ病院 一心堂」を掲げ、地域の皆さまの健康を守るため最善を尽くします。

寒さが厳しくなる冬は、血管が収縮しやすく、心臓への負担が増える季節です。「胸の痛み」「息切れ」「むくみ」を感じたら、お気軽に循環器内科までご相談ください。

[年末年始のご案内]

内科、外科は年末年始も休まず、365日診療を行っています。年末年始の発熱外来では混雑が予想されます。来院前に、お電話でお問い合わせください。



・12月28日(土)~1月5日(日)

内科・外科 診療

・2025年1月6日(月)から

通常通り

※12月31日(火)は、岡山市の休日当番医の担当日となります。



Behind the Scenes - 医療を支える専門職 -

医療は多くの医療技術専門職によって支えられています。各ジャンルの専門職の立場から岡村一心堂病院の得意をご紹介します。今回は、がんや心臓病の診断に欠かせない「病理診断」。正確な診断を支える細胞検査士に注目します。

掲げる「がんと心臓 一心堂」を支える 細胞検査士 病気の **本当の姿**を見つける病理検査



写真左から 正木裕児(消化器外科)、細胞検査士2名、津嘉山 朝達 (病理診断科)

がんや心臓病の診療では、早期かつ正確な診断が欠かせません。その診断を支える重要な存在が、臨床検査技師の中でも「細胞検査士」と呼ばれる専門家です。普段は目にするものではない仕事ですが、医療の現場をどう支えているのか。今回は、その裏側を覗いてみましょう。

がんの治療には欠かせない検査

病理検査は、体の中から採取した組織や細胞を顕微鏡で詳しく調べることで、がんや炎症などの病気を見つけたり、進行具合を判断したりする検査です。抗がん剤が効果を発揮するかどうかを調べる際にも、重要な役割を果たしています。病理検査には大きく2つの種類があります。一つは「組織診検査」。手術や内視鏡で採取された組織を調べる検査です。もう一つは「細胞診検査」。痰や尿、病変部から採取した細胞を調べる検査です。当院では、病理専門医1名と、細胞検査士資格を持つ臨床検査技師2名が病理検査を担当しています。病理専門医は組織診断を、細胞検査士は細胞診断を担当します。当院では病理医・細胞検査士がともに在籍しているため、標本が出来上がった段階で早期の診断が可能です。外科、耳鼻咽喉科等の臨床医とも随時、随時カンファレンスを行い、より良い病理診断を提供できるよう努めています。

伝えたい当院の強み

当院では、乳腺や甲状腺、肺、肝、腎、リンパ節など全身の臓器に対して、外科医が生検検査を行う際に、「ROSE **R**apid **o**n **s**ite **e**valuation(迅速現場評価)」という手法を導入しています。細胞検査士が顕微鏡を持って直接現場に臨み、その場で検体の処理と暫定診断を行うことで、検体不適による再検査を防ぎ、患者さんの負担を軽減します。また、病気が見つかった際には、次の検査や治療をスムーズに進めることが可能です。さらに、手術中も病理専門医と細胞検査士が待機し、術中迅速検査を行える体制を整えています。

メッセージ

- 患者さんへ -



私たち、細胞検査士は、患者さん一人ひとりにとって最適な治療が選ばれるよう、病理検査を通して医療チームを支えています。「見えないところ」で患者さんに寄り添い、信頼できる医療を提供できるよう日々取り組んでいます。みなさんが安心して治療に専念できるような「縁の下の力持ち」でありたいと思っています。

検査室：臨床検査技師(細胞検査士) 梶谷 博則